

議案第 8 号 江南市新図書館建設事業基金の設置、管理および処分に関する条例の一部改正について、日本共産党議員団を代表し、反対の立場で討論を行います。

この条例改正案は、新図書館建設事業の推進に用途を限って積み立てられてきた基金を、現図書館の改修整備にも使えるよう変更しようとするものです。

当局の答弁によれば、別途基金の処分に関する取扱い基準を定め、事業費のうち一般財源が 2000 万円以上かかる事業の財源に充てる場合に、基金の処分を可能とする。その場合は、その都度、議会に相談するとのことでした。

私は、次の理由から、この条例改正に反対するものです。

第一は、この改正によって、新図書館建設のために今日まで積み立てられてきた 7 億 4300 万円余の基金が、現施設の改修費用のために次々に取り崩され、図書館新築がきちんとした議論もないままに、はるかかなたに遠のく恐れがあることです。これでは市民に対し説明責任が果たせません。

新図書館の建設については、平成 8 年に策定された第 4 次江南市総合計画で推進が位置づけられ、この年から基金の積み立てが行われてきましたが、平成 17 年 3 月に財政上の理由から新図書館建設の方向性は白紙に戻されました。

しかし、24 年 3 月に策定された第 2 次生涯学習基本計画の中で、市民アンケートにおいて特に充実させてほしい施設として、図書館が最も高い割合を占め、図書館は狭隘化が顕著であるとして、施策の展開方向で「新図書館の整備」とかけ、「今後の図書館のありかたを、引き続き様々な角度から調査研究します」と記しています。

平成 25 年 8 月の江南市教育委員会点検・評価報告書では、学識経験者の意見として、「図書館は、建設後 30 年以上が経過し、施設・設備とも老朽化しており、バリアフリー化もされていない、また、手狭でボランティアの活動の場としても不十分であるため、誰もが利用しやすい新たな図書館の整備を図っていただきたい」としています。

このように、現図書館が市民要望に十分応えられていないことは、教育委員会自身が発表している点検評価書からも、市民アンケートからも明らかです。私が一般質問で示したように、隣の扶桑町図書館や大口町立図書館を多数の江南市民が利用し、2 町の図書館だけで年間 13 万 6 千冊もの大量の本を借りに出かけています。江南市立図書館は市民にとって魅力あるものになっておらず、10 万人都市の責任を果たすものにもなっていません。

たとえ現図書館のバリアフリー改修を行ったとしても、狭い中 2 階や 3 階に車いすの方が行けるようにはならず、完全なバリアフリー化の実現は到底困難です。

またボランティア活動をはじめ、さまざまに活動の幅が広がっていく市民参加の図書館活動や蔵書数拡大への要求、滞在型の図書館を求める市民ニーズへの対応など、狭隘な現施設の改修では限界があることも明らかになってきたのではないのでしょうか。

市がやらなければならないことは、新図書館整備を視野にいれ、第 2 次生涯学習基本計画が示すとおり、「今後の図書館のありかたを、引き続き様々な角度から調査研究する」

ことではないでしょうか。ところが市は、図書館のあり方を調査研究することを何も行っていません。

築37年の現図書館の法定耐用年数は50年です。長寿命化改修でさらに10年延命すれば、今後、まだ23年間、使用可能な施設です。現在まで、ほとんど大きな改修を行っていてこなかったため、今後早い時期に、外壁や屋根、天井、内装、床、電気設備や給排水設備の大改修が必要になるほか、耐震性は本当に大丈夫なのかについても再度点検する必要が出てくるのではないのでしょうか。

現施設を大規模改修と設備更新をしっかりと行って23年後まで継続使用するのか、それとも、改修は必要最低限度にとどめ財政が許す限り早期に新築するのか、市として何も方向性を出していません。

このような状態で、突然、「改修や隣接地の購入のために取り崩せるよう基金条例を改定し、しかも今後の取り崩しは議会と相談」とされても、議会として判断のしようがないのではないのでしょうか。市の対応として、あまりにも無責任といえるのではないのでしょうか。

今後の新図書館と現図書館の方向性が定まるまで、新築基金には手を付けず、本当に必要な緊急性のある改修について財政調整基金で対応する、これが市民に対し説明がつく対応ではないのでしょうか。

反対理由の第2は、今議会に江南市公共施設整備事業基金の設置、管理及び処分に関する条例が提案され、老朽化し更新が必要な公共施設の、新築・建て替えに目的を絞った基金を設置しようとしていることです。

現図書館も、まぎれもなく老朽化し更新が必要な公共施設の一つであり、新築のための基金の積み立てがさらに必要な施設です。財政に余裕がないからと図書館新築基金を約5千万円取り崩す一方で、新たに公共施設の更新のためにと、今回5千万円積み立てようとしています。これは図書館だけを別扱いするもので、施策に整合性がなく説明が付きません。

反対理由の第3は、財政が厳しいからと、図書館基金を条例を改定してまで崩そうとしています。例えば布袋本町通線や布袋駅東側の道路拡幅工事、宮田導水路上部整備工事など、必要性や緊急性、市の財政状況を考え、縮小見直しを図るべき事業は、他にたくさんあるということです。限られた財源の中で、市民のみなさんの願いに応える施策を展開するために、見直すべきものはしっかりと見直すべきです。

江南市立図書館の1人あたりの図書資料購入費は、年間110円。県下ワースト3で、近隣市町に比べてあまりにも少なすぎる金額です。現図書館は、狭くて図書購入費を増やしても置く場所がなく限界だなどと答弁されていますが、例えば、藤里小学校の空き教室を利用している閉架書庫をもっと増やして古い書籍を閉架に移動させ、図書購入費を増やして新しい本の購入を増やすなど、市民ニーズに応える道はあることを付け加えて、反対討論とします。